
数分の出会い

十一心

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
数分の出会い

【Nコード】
N8561U

【作者名】
十一心

【あらすじ】

~~~~~

「……久しぶり」

「久しぶり

待ちくたびれたよー」

彼は苦笑いしながら

「仕方がないよ」

私は少し我が儘に

「そうだけど

もっと、早く会いたかった

もっと……」

彼は、私を後ろから抱き締めてきた。私はドキドキして何も言えなくなり。

「僕もだよ」

彼はズルい

私たちが会うつと、晴天だろうと周りは闇に飲まれていく。

天災、疫病、飢饉などが起こると叫び逃げ回る者もいる。

だけど

彼は、周りを気にせずに抱き締めてくれる。

私は何もせずに彼に身を委ねる。

少しでも彼の温もりを感じ続けられるようにと。

たけど、時は止まってくれない。

私たちが近くに居られるのは数分だけ。

彼が少し離れた

名残惜しくて声が出てしまった

彼は申し訳なさそうに

「ごめん

もう行かないと」

私は俯きながら

「うん

……ねえ次はいつ会えるの」

彼は自信が籠もった声で

「いつ会えるかは、分からないけど  
必ず会える」

私は彼の瞳を見ながら

「待ってるから」

「おう

行ってきます」

「行つてらっしゃい」

私たちは、次も会うことを信じて、「行ってきます」「行つてらっしゃい」を使う。

「行つて（帰つて）きます」「行つて（帰つて）らっしゃい」言葉どつりに次も会えるようにと。

私たちが別れると、周りには光が照らし始める。

空を見上げていた子供が

「お母さんダイヤモンドリング綺麗だったね」

「綺麗だったねー

今回は雲がなくてよったわ」

完

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8561u/>

---

数分の出会い

2011年10月8日10時55分発行